

単元まるごと計画「Made in 調査隊！世界とのつながり」（全8時間）

単元のゴール（can-do）：身の回りのものがどこから来ているかを調べ、It's a / It's from / ... is in を使ってグループのマップで紹介し、自分たちの暮らしが世界とつながっていることを伝え合う。

評価規準 3観点（国研参考資料の文型で作成）

知識・技能	Where is it from? / It's from / ... is in などの表現について理解しているとともに、身の回りのものについて、それがどこの国・地域から来ているかを伝え合う技能を身に付けている。
思考・判断・表現	自分たちの暮らしが世界とつながっていることを伝えるために、身の回りのものとその産地について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。
主体的に学習に取り組む態度	自分たちの暮らしが世界とつながっていることを伝えるために、身の回りのものとその産地について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとしている。

◎＝記録に残す評価（方法つき）。◎のない時間は指導に徹し、記録に残す評価は行わない。

単元の流れ 全8時間

時	紙面	主な活動	帯（毎時間のはじめ）	評価
1	SO	先生の持ち物の Made in 当てクイズを聞く（Where is it from? に会う）＋「調べるのは国だけ」のルールを決めて掲示＋ポスター掲示	歌／チャンツ	記録なし
2	SO	ものの言い方＋It's from の練習（絵カード）＋聞き分けマップ（活動1）	Small Talk①話題1（先生の持ち物）	記録なし
3	YT	地域の言い方（Asia / Europe など6つ）＋... is in の言い方とリアクション練習＋きくワーク	歌／チャンツ	記録なし
4	YT	3点セットを口で組み立てる（もの→国→地域）＋書きWS①	Small Talk①話題2（給食に世界が来ている）	記録なし
5	EC	教室・学校で Made in 調査→グループのマップと台本づくり（活動2）＋書きWS②	歌／チャンツ	◎ 行動観察（知技）
6	EC	Made in マップ発表①（グループ交換）→中間指導	Small Talk②話題1（先生がこまったら助けて）	◎ 行動観察（思判表）
7	OH	世界とつながる暮らしを聞く（教科書OH）＋マップ発表本番②→おわりに「いちばん遠くから来たもの」（活動3）	Small Talk②話題2（いちばん遠くから来たもの）	記録なし
8	OH	パフォーマンステスト（発表＋やり取り）＋単元の振り返り	なし——テストに使い切る	◎ テスト（知技・思判表）＋振り返りカード（態度）



45分の基本形と運用メモ

45分の基本形 毎時間この流れ（先生は上から順に使うだけ）

分	やること	使う教材
0-5	あいさつ・歌	—（教科書付属音源）
5-10	Small Talk／チャンツ	Small Talk台本①
10-15	語彙の練習	絵カード
15-17	めあての確認	—（黒板に型を掲示）
17-37	主活動 ※途中で中間指導	活動シート1～3
37-45	振り返り（1行）・あいさつ	振り返りカード

時間が足りないときは、ここを削る（優先順）

- 1. 聞き分けマップ（第2時）は1回戦（①～⑧）まででよい。2回戦の食べものは朝の時間や雨の日の予備へ回せる
- 2. きくワーク（第3時）と書きWS②（第5時）は朝の時間や家庭学習へ回せる。本丸は口で3文つなぐこと
- 3. マップと活動3の色ぬり・かざりは英語の時間から外す（宿題か図工へ）。OHは「1つ気づきを言えたらOK」に圧縮してよい
- 4. 調べるものは1グループ3つ厳守（増やすと台本づくりが第6時に食い込み、発表本番が消える）

準備物 印刷するだけ（準備5分）

- ☐ 絵カード（提示用1部＋班数分）
- ☐ 活動シート1～3（各時間、人数分）
- ☐ 書きワークシート①②・きくワーク（人数分）
- ☐ 世界地図（教室掲示用の大きいもの1枚＋グループ用にA3コピー・班数分）
- ☐ キーフレーズポスター（第1時に拡大して黒板横へ・単元中はずっと）
- ☐ 先生の Made in サンプル3～4点（学校の備品でよい：ボール・チョークの箱・コピー用紙の包みなど）
- ☐ パフォーマンステスト式・振り返りカード（第8時）

配慮が必要な子へ

- ・調べるのは教室・学校にあるものだけにする（家から持って来る宿題にしない）。備品を教材にすれば、そもそも持ち物を比べようがない——この単元最大の配慮点
- ・タグを見せ合う活動にはしない。読み取るのは産地だけで、もの自体は見せなくてよい。ねだんやメーカーの話が出たら「今日は国だけ」と全体に戻す
- ・国名が読めない子には、地図の番号と国名を対応させた一覧を配る。英語の国名は音で十分（書き写しは任意）
- ・外国につながる子がいるクラスでは、その国を「調べる対象」として名指ししない。本人が話したいときだけ話せる空気を先につくる

先生へ（この単元の勤どころ）

- ・この単元の地雷は持ち物のねだんとブランド。第1時に「調べるのは国だけ。ねだんとメーカーは見ない・言わない・書かない」を全員で決めて掲示する。ルールを子どもと決めた形にすると効く
- ・Where is it from? の from は「～から来た」の合図の音。文法（be動詞＋from）の説明はしない。説明した瞬間に話せなくなる
- ・使う地図は社会科と同じものを。5年「世界の中の国土」で学んだ六大陸がそのまま Asia / Europe / Africa / North America / South America / Oceania になる。英語で言えた国に印がつくほど社会科の学習が生きる（6年3学期「日本とつながりの深い国々」への橋渡しにもなる）